

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

須坂市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害木駆除事業
事業費		869,000 円 (うち支援金: 868,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が拡大し、森林の環境に悪影響を及ぼしていることから、森林の健全は育成と景観形成の保全のため、早急の対応を必要としている。

(2) 本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の補助対象とならない松くい虫被害木を駆除し、景観形成を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内全域 (居住地周辺を主体に実施)

(2) 対象者 地域住民及び松林所有者

(3) 実施方法 松くい虫被害木の伐倒駆除及び破砕処理

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

被害木の処理 40 本程度/年 × 5 年間

②令和 3 年度実績

被害木の処理 28 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害の蔓延防止と森林の健全化。

(2) 継続性

松くい虫被害蔓延防止のため、防除対策を継続していくことが重要。

(3) 普及性

松枯れは見た目にも悪く、倒木の恐れもあることから、駆除することで普及効果は極めて高い。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

公園等の準公共施設の松くい虫の蔓延防止及び景観の維持を図ることができた。

(2) 課題

松くい虫被害の全容を把握し、被害木の適期駆除を徹底させるため、地域住民を巻き込んでの、被害木の早期発見に傾注する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公園等の準公共施設の松くい虫の蔓延防止のため、同程度の事業規模で継続したい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

須坂市

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	間伐材利用の促進事業
事業費		632,500 円 (うち支援金: 625,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当市の森林の現状として、その多くが木材資源として利用可能な時期に達しており、林業は育てる時代から伐って使う時代へと移ってきていることから、地域での間伐による森林整備とその利活用が大きな課題である。

(2) 本事業の目的

- ・坂田山共生の森において、作業道の路面流水による流出防止のために必要な予防治山として、間伐材を利用した「路面水切工」を設置し、流量や流速の分散を図る。
- ・搬出間伐の促進と間伐材を利用し製作したベンチを公共施設等に設置することで、広く一般に PR する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂田山共生の森の作業道、公共施設

(2) 対象者 地域住民と一般市民

(3) 実施方法

- ・治山事業に伴う間伐材を活用した「路面水切工」設置
- ・公共施設への間伐材ベンチの設置

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

- ・間伐材を活用した「路面水切工」設置 6 箇所
- ・間伐材ベンチ設置 2 箇所 / 年 × 5 年

②令和 3 年度実績

- ・間伐材を活用した「路面水切工」設置 5 箇所
- ・間伐材ベンチ設置 8 箇所



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・ 県産材間伐材を活用した「路面水切工」を設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。
- ・ 間伐材ベンチに開設パネルを併せて設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。

(2) 継続性

- ・ 山地災害による被害を防止・軽減する予防治山としての間伐材を利用した路面流水による流出防止のため「路面水切工」の設置は継続する。
- ・ 間伐材ベンチを継続的に設置することで、間伐材の活用事例を直接かつ継続的に市民にPRすることができる。

(3) 普及性

- ・ 坂田山共生の森を市民等が利用する際、直接目にするため、県産材間伐材の利用拡大に向けた普及効果は極めて高い。
- ・ 間伐材ベンチを利用することで、木のぬくもりを直に感じることができ、県産材利用の拡大に向けた普及効果は期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

県産材間伐材を活用した「路面水切工」を設置することで、降雨による流出防止に効果を発揮した。

公園等に設置した間伐材ベンチに開設パネルを併せて設置することで、公園利用者へ間伐材活用のPRができた。

(2) 課題

地域での間伐による森林整備の促進と間伐材の木材利用推進が課題であり、地域材の活用方法を周知し利用拡大につなげるのが課題。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)